

第3回

# 計算社会科学と その周辺セミナー

近年公衆ネットワークの普及、スマートフォンなどのデバイスを介して個人・個人のWebとの関わりがより一層ソーシャル化しました。実空間での様々な人々の自発的な情報行動などの詳細はデジタルに記録・蓄積されるようになりこのような大規模社会データを情報技術によって分析・モデル化する学問が進んでいます。

このような人間行動や社会現象を定量的に理解しようとする学問が「計算社会科学」(Computational Social Science)と云います。本セミナーでは、国内外での計算社会科学の普及・発展を目指し、政治学、物理学、経済学、数学、社会学、情報学などの様々な分野の研究者により活発に情報共有・議論を行う場を提供することを目的とします。

日時:2018年5月29日 **火** 13:00-15:00

場所: 群馬大学 荒牧キャンパス (社会情報学部棟:101講義室)  
群馬県前橋市荒牧町4-2 当日先着70名

「きみは武力紛争の加害者か? 被害者か?  
~ サプライチェーンとネットワーク科学で紐解く世界と私達の繋がり ~」

13:00~14:20

**水野 貴之** (国立情報学研究所・情報社会相関研究系・准教授  
総合研究大学院大学・複合科学研究科・准教授)

略歴:

2005年中央大学大学院理工学研究科博士後期課程修了。博士(理学)。'04年4月、日本学術振興会特別研究員。一橋大学経済研究所講師、筑波大学大学院システム情報工学研究科准教授、JSTさきがけ研究員兼務を経て、'13年4月より現職。主な著書に「株価の経済物理学」(培風館、'11年)がある。

概要:

2015年の新春、私はテレビに釘付けとなった。日本人2名がISISに拘束されている。手にはナイフ、そして彼は「8500km離れているけど、そばにいる」ようなこと言った。この研究はココから始まっている。世界は6人の隣人で繋がっているというが、紛争地と我々も6人で繋がっているのか? そうであれば、紛争地で採掘された鉱物を我々は買い、我々のお金は人を殺す資金源なのか!? 本講演では、グローバル・サプライチェーンとメディアが報じた無責任な企業・組織を結合し、ネットワーク科学の手法により、我々と遠き地での武力紛争や環境破壊、人権侵害との関わりについて明らかにする。また、問題を科学的に解決するための社会的責任について述べる。

14:40~15:00

質疑応答

全体司会進行: 群馬大学 社会情報学部 助教(卓越研究員) 川畑 泰子

